この式において、E_{SC}、$E_{SC,t,i}$、m及びnは、それぞれ次の数値を表すものとする。

E_{SC}　：冷房設備の基準一次エネルギー消費量（単位　1年につきメガジュール）

$E_{SC,t,i}$　：時刻tにおける1時間当たりの標準的な冷房設備iの基準一次エネルギー消費量（単位　1時間につきメガジュール）

m　：単位住戸における冷房設備の数

n　：1年間に冷房する時間（単位　時間）

(ロ)　$E_{SC,t,i}$は、標準的な冷房設備の種類及び仕様、単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに標準的な冷房設備により処理される冷房負荷を勘案して算出するものとし、$E_{SC,t,i}$を時刻tにおける1時間当たりの標準的な冷房設備の基準一次エネルギー消費係数を用いて算出する場合においては、次の式により算出するものとする。

$E_{SC,t,i}=C_{SC,t,i}\times Q_{T,SC,t,i}$

この式において、$C_{SC,t,i}$及び$Q_{T,SC,t,i}$は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$C_{SC,t,i}$　：時刻tにおける1時間当たりの標準的な冷房設備iの基準一次エネルギー消費係数

$Q_{T,SC,t,i}$　：時刻tにおける1時間当たりの標準的な冷房設備iにより処理される冷房負荷（単位　1時間につきメガジュール）

(ハ)　$C_{SC,t,i}$は、標準的な冷房設備の種類及び仕様、単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに標準的な冷房設備により処理される冷房負荷を勘案して算出するものとする。

(ニ)　標準的な冷房設備により処理される冷房負荷は、次に掲げる処理顕熱負荷及び処理潜熱負荷の合計とする。

(i)　標準的な冷房設備による処理顕熱負荷は、冷房顕熱負荷が標準的な冷房設備による最大顕熱出力未満となる場合は冷房顕熱負荷とし、冷房顕熱負荷が標準的な冷房設備による最大顕熱出力以上となる場合は当該冷房設備による最大顕熱出力とする。

(ii)　標準的な冷房設備による処理潜熱負荷は、冷房潜熱負荷が標準的な冷房設備による最大潜熱出力未満となる場合は冷房潜熱負荷とし、冷房潜熱負荷が標準的な冷房設備による最大潜熱出力以上となる場合は当該冷房設備による最大潜熱出力とする。

(ホ)　冷房負荷の算出については、次のとおりとする。

(i)　冷房負荷の算出においては、建築物の種別及び地域の区分に応じ、外皮平均熱貫流率及び冷房期の平均日射熱取得率に次の表に掲げる数値を用いることとする。

	建築物の種別	地域の区分							
		1	2	3	4	5	6	7	8
外皮平均熱貫流率（単位　1平方メートル1度につきワット）	一戸建ての住宅	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	2.14
	一戸建ての住宅以外の住宅及び複合建築物	0.41	0.41	0.44	0.69	0.75	0.75	0.75	1.67
冷房期の平均日射熱取得率	一戸建ての住宅	1.9	1.9	2.0	2.7	3.0	2.8	2.7	3.2
	一戸建ての住宅以外の住宅及び複合建築物	1.1	1.1	1.1	1.4	1.5	1.4	1.3	2.4

(ii)　冷房負荷の算出においては、次に掲げる事項を勘案すること。

①　冷房設備の運転時間及び温湿度設定

②　居住者の在室時間、在室人数、発熱量及び発湿量

③　局所機械換気及び全般機械換気の運転時間並びに換気量及び換気経路

④　家電製品の運転時間及び発熱量

⑤　調理の時間並びに発熱量及び発湿量

(iii)　外気温（日平均外気温を含む。）については、地域の区分ごとに定められる気象情報を用いること。

(iv)　冷房負荷の算出においては、次の①及び②に掲げる熱をそれぞれ勘案すること。

①　顕熱

a　室温と外気温又は地温との温度差によって外壁、窓等を貫流する熱

b　換気（通風のための措置を含む。②において同じ。）又は漏気によって輸送される熱

c　日射の吸収又は夜間放射によって発生する熱

d　家電製品、人体その他室内に存する物体から発生する熱

e　床、壁その他熱容量の大きな部位に蓄えられる熱

f　調理により発生する熱のうち、冷房負荷増加に寄与する熱

②　潜熱

a　換気又は漏気によって輸送される水蒸気が保有する熱

b　厨房器具、人体その他室内に存する物体から発生する水蒸気が保有する熱

c　床、壁その他湿気容量の大きな部位に蓄えられる水蒸気が保有する熱

d　調理により発生する水蒸気が保有する熱のうち、冷房負荷増加に寄与する水蒸気が保有する熱

(ヘ)　エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表第1に掲げる数値を用いるものとする。

ハ　機械換気設備の基準一次エネルギー消費量は、次の式により算出するものとする。

$E_{SV}=\alpha_{SV}\times A_{total}+\beta_{SV}$

この式において、E_{SV}、α_{SV}、A_{total}及びβ_{SV}は、それぞれ次の数値を表すものとする。

E_{SV}　：機械換気設備の基準一次エネルギー消費量（単位　1年につきメガジュール）

α_{SV}　：単位住戸の床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数（単位　1平方メートル1年につきメガジュール）

A_{total}　：単位住戸の床面積の合計（単位　平方メートル）

β_{SV}　：単位住戸の床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数（単位　1年につきメガジュール）

係数	床面積の合計の区分		
	(い)	(ろ)	(は)
	床面積の合計が30平方メートル未満	床面積の合計が30平方メートル以上120平方メートル未満	床面積の合計が120平方メートル以上
α_{SV}	33	38	33
β_{SV}	129	−21	579